

会議録

会議名	令和4年度 第1回 目黒区廃棄物減量等推進審議会
日時	令和4年6月27日(月) 午後1時～午後3時
会場	目黒区総合庁舎地下1階入札室
出席委員 (敬称略)	安井、平尾、鈴木、田島、山宮、松嶋、かいでん、原、小林、大月、坂本、市毛、日比野、大西、杉本(計15名)
区側職員	橋本環境清掃部長、神清掃リサイクル課長、金元環境保全課長、細野清掃事務所長
傍聴者	なし
配付資料	<p>諮問文(写)</p> <p>廃棄物減量等推進審議会委員名簿</p> <p>資料1 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定の進め方について</p> <p>資料2 一般廃棄物処理基本計画改定に向けた基礎調査について</p> <p>資料3 目黒区分別収集計画(第10期)について</p>
会議次第	<p>1 開 会</p> <p>20名中、出席者は14名であり、半数以上の出席があるため定足数を満たしており、会は成立する。(1名遅れて出席)</p> <p>2 新委員・区側職員の紹介</p> <p>3 区長から審議会への諮問</p> <p>4 区長挨拶</p> <p>5 議 事</p> <p><審議事項></p> <p>(1) 目黒区一般廃棄物処理基本計画改定の進め方について</p> <p>○区 (資料1により説明) (専門部会委員名簿の配付)</p> <p>○会長 専門委員会の設置だが、事務局の説明どおり設置することについて了承をいただきたい。</p> <p>○委員 家庭系と事業系に分かれているが、どのような人選なのか。</p> <p>○副会長 一般廃棄物には家庭系と事業系がある。家庭系には家庭ごみに関する意見を頂ける住民団体代表の委員を選出し、事業所の実態を把握している事業者団体代表の委員で区分けを行ったとご理解いただきたい。</p> <p>○委員 希望ということではないのか。</p> <p>○区 前回の改定の時も、同様に選出をさせていただいた。事業者団体、住民団体の代表として団体の意見を反映していただきたいと考えている。</p> <p>(委員の了承を確認)</p> <p><報告事項></p> <p>(2) 一般廃棄物処理基本計画改定に向けた基礎調査について</p> <p>○区 (資料2により説明)</p> <p>○委員 調査の有効回答率はどれくらいを見込んでいるか。</p> <p>○区 4割程度の回答があれば良いと考える。</p> <p>○委員 それは、前回のパブリックコメントなどの統計から導いた数値か。</p>

	<p>○区 前回実施の区民アンケート・事業者向けアンケートなどから想定した数値である。</p> <p>(3) 目黒区分別収集計画(第10期)について</p> <p>○区 (資料3により説明)</p> <p>○委員 回収量見込が減っていくとのことだが、最終的にはどれくらいのリサイクル率になるのか。例えば3年後はリサイクル率が何%位になるのか。現在のリサイクル率は25%程度と把握している。</p> <p>○区 リサイクル率全体についてはご指摘の通り25%前後を推移しており、令和2年度は25.7%である。一般廃棄物処理基本計画では、令和7年度までに31.7%を目指すとの記載があり、目標数値と乖離している。ただし、この分別収集計画は容器包装リサイクル法の関係で策定しており、リサイクル品目の対象が限られている。また、東京都及び国に報告をするうえで、現実に即した回収量を把握し、数値をあげる必要がある。手元に資料がなく正確ではないが、3年後の容器包装廃棄物の回収見込みを基に推計しても全体のリサイクル率は25.7%に近い数値になっていると考える。</p> <p>○委員 ごみの量を減らしながらリサイクル率を上げていくというのは大きな課題と考える。</p> <p>○委員 使い捨てプラスチックの発生抑制が必要と考えるが、使ったものは捨てるしかない。捨てるものが出た場合にはどうしたらよいのか。また、MGR100プロジェクトの成果について伺いたい。</p> <p>○区 使い捨てプラスチックの発生抑制は、製造するとき、購入するとき量を減らすことが非常に重要と考えている。また、購入時にプラスチックを使わないという視点で「めぐろ買い物ルール」が生まれた経緯があり、効果的に使っていきたい。今後ごみの発生抑制という視点でご意見をいただきたい。</p> <p>MGR100については、1人1日当たりのごみ量は平成30年度までは着実に減っており、目標に近い数値で推移していたが、令和元年度、令和2年度に新型コロナウイルスの影響もあり増加に転じた。今後の目標設定については皆さんにご意見をいただきながら、より身近に取り組めるような目標を考えていきたい。</p> <p>○会長 良い案があればお願いしたい。</p> <p>○委員 プラスチック資源循環促進法の施行を受け、製品プラスチックの資源回収も含めて行政は対応しなくてはならない。渋谷区は製品プラスチックの回収が始まるが、目黒区の対応について伺いたい。</p> <p>具体的なアイデアについては、店に容器を持っていくと割引される区のキャンペーンなど今までにも行ってきたものがあるが、なかなか定着しない。しかし、レジ袋有料化があれだけ浸透したことを考えると、こつこつ地道に普及していけば定着するのではないかと。</p> <p>○区 具体的な時期は伝えられないが、製品プラスチックも含めて回収する方法を事業者にも相談しながら検討を進めている。ご指摘のように渋谷区は</p>
--	--

来月から製品プラスチック回収を実施予定である。目黒区も着手が遅れないようにしたいと考えている。

MGR100 については、製品プラスチックを資源回収しても重量が軽く 100g 減量という目標には遠く及ばない。製品プラスチックの回収だけではなくいろいろと考えていかななくてはならない。目黒区の実組である「マイ容器キャンペーン」、「エコテイクアウト推進」については今年度も引き続き行っており、少しずつ定着していけば良いと考えている。

○委員 見える化が重要と考える。

1 点目について、第 10 期については、お金の使い方を見える化する視点を明確に入れたほうが良い。税金がどれだけ使われているのか、削減の努力をすることによってどれだけ税金の無駄を省くことができるのか、数字を見るだけでも意識が高まっていくと考える。

2 点目について、目黒区の運動が浸透していないことが残念である。「めぐろ買い物ルール」「MGR100」は他の自治体に比べると先んじて行ってきた取組である。「めぐろ買い物ルール」のリデュース・リユースについては、家庭でできる部分と商店街などの協力でできる部分とをニュースなどで発信することで盛り上がるのではないかと、話題づくりも大切である。こういうことは、教育現場の子どもたちが進めてくれると嬉しい。ムーブメントを作っていくことも必要。「MGR100」については、単語はだいぶ広がったがまだ一部である。1 日 100g 減量することで経費が削減でき、他に予算を使用できることをアピールするなど見える化が必要である。

3 点目について、5 ページの「分別区分ごとの収集・運搬段階及び選別・保管段階での実施者」を参照すると、「民間業者に委託」と記載されている。どのような体制で、どのような効果があったのかなど民間業者の協力をもっと明確化してほしい。現状のままでは、目黒区の分別計画がどのようなものなのか、チェックできない。

○委員 プラスチックの再利用技術はどうか。また、日本人は過剰包装好きという傾向がある。

○副会長 ペットボトルについてはペットボトルに戻す技術が進んでいる。目黒区で回収されたペットボトルをリサイクルしている事業者でもボトル to ボトルリサイクルを行っており、一部はペットボトルに戻っている。その他プラスチックについては、日本全体では半分が様々なプラスチック製品になり、半分はケミカルリサイクルで鉄を作る原料やアンモニアを作る化学工場に流れている。目黒区では鉄を作る工場に流れているはずである。きちんと分別すれば価値のあるものになる。実際に回収したプラスチックがどうなっているのか区民に伝えていくことも重要と考える。

○委員 渋谷区ではプラスチックを一括で集めて、容器包装プラスチックと製品プラスチックに分けるようだ。一括で集めてから、容器包装プラスチックと製品プラスチックに分けるのは大変ではないか。

○副会長 製品プラスチックには制度がなく、容器包装を利用・製造する事業者から

	<p> 抛出されているリサイクル費用を製品プラスチックのリサイクル費用に使うことができない点が一番大きな問題となっている。また、区民に容器包装プラスチックと製品プラスチックを分別してもらうと回収の車も倍必要となり、そのコストもかかる。一括回収後の分別の技術も進んでおり、そのコストとの兼ね合いである。 </p>
○委員	<p> 容器包装プラスチックと製品プラスチックを一括で回収して、割合などを調べることで費用負担を決めて再生利用することはできないか。 </p>
○区	<p> 詳細は不明だが、国でも容器包装プラスチックと製品プラスチックの混合ベール（保管用に圧縮したもの）で引き取り、サンプル調査によって容器包装プラスチックと製品プラスチックの割合を出して費用負担を算出する方法を検討している。 </p>
○委員	<p> 共働きが増えることで、パック総菜なども増えると考ええる。普段エコを意識して買い物をしているが、店側でもエコが分かる見せ方をしてくれると選びやすい。 </p>
○委員	<p> 事業者（チェーンストア）目線でお話させていただくと、関係団体でトレイを使用しない提供などなるべくプラスチックを使わない取組をできる範囲で行っている。プラスチック資源循環促進法が施行され、事業者として求められることもあると思う。トレイゼロは難しく、素材をバイオマスや紙製にするという方向性はあるが、1～2年でできるものではない。総菜のばら売りはトレイを使用せずエコだが、コロナ禍でできない状況である。それぞれの事業者ができる範囲での取組を行っていることをご理解いただきたい。この場でいただいたご意見も今後の参考にしたい。 </p>
○委員	<p> 調布市で食品ロス削減の取組として、給食残渣からエネルギーを作る実験を教育現場で実施した。このような取組は各地できかんに行われている。都ではスタートアップ企業を支援する意味合いも含めて官主導で取組を行っている。目黒区でも産官学連携を打ち出すことでPRに繋がると考える。「めぐろ買い物ルール」「MGR100」が浸透していないのはPRの問題ではないか。大きな枠組みとして産官学の取組を検討していただきたい。 </p>
○委員	<p> プラスチック一括回収について、現在、ペットボトルと容器包装プラスチックの分別が徹底できているのもったいない。別途、製品プラスチックを分別すればよいのではないか。 </p> <p> 「MGR100」の周知が徹底できていないということだが、紙での周知ではなかなか難しいのではないか。以前、出前講座をしていただき、とても良かった。大いに活用してはどうか。また、区民も周知に協力しなくてはならないと考える。 </p> <p> また、目黒清掃工場の現状を伺いたい。 </p>
○区	<p> 目黒清掃工場の工事は予定通り進んでおり、試運転を10月、本格稼働は来年4月の予定である。 </p>
○委員	<p> 消費者はきれいなものが好きであり、企業側の抑制もできる範囲で行って欲しい。「MRG100」についても、「水を切って細かく粉碎して出す」など </p>

	<p>様々なアイデアを出してPRをすることで、区民の協力を得られるのではないか。区民は成果が見えないとやる気がでない、見える化が大切である。</p> <p>○副会長 成果を広報できたら良い。区報が全戸配布となったため、目にする機会が増えた。また、新型コロナウイルスのワクチン接種の影響でLINE区公式アカウントの登録者が増加し、チャンネルができてきたようだ。製品プラスチックについては、経済的な仕組・技術的な問題と区民の手間と総合的に考えて専門部会でも議論していきたい。</p> <p>○委員 川崎市では、プラスチック製容器包装は迷ったら資源として出してほしいという趣旨のチラシを作成し、広報に折込している。そのチラシには、分別のお礼やごみ減量の成果が掲載されていた。目黒区の場合も、広報のタイミングとして、アンケートやチラシ配布のときなどに、目黒区が分別を頑張っていることが分かるデータなどを提示できると良い。</p> <p>○副会長 成果の見える化は必要。お礼の言葉も大切である。こういった工夫についても、委員の皆さんから意見を頂きたい。</p> <p>○会長 廃棄物の処理はお金がかかるし、完璧にやるのは難しい。それでも昔に比べれば目黒区のレベルは徐々に上がっていると思う。</p> <p>6 閉 会</p> <p style="text-align: center;">以 上</p>
--	--